

私を変えた先生

私を変えた先生はK先生です。私が小学4年生の時の担任の先生でした。先生はよく道徳の時間に「人間って何だろう？」と私たちに問いかけてきました。私たちは考えて意見を発表しました。でも、その答えは決まっていなかったと思います。先生は辞書で調べても出てこないと言っていました。確かに道徳での答えは一つじゃないし、決まっていなかったと思います。

先生は体育の時間、縄跳びを2分間で100回跳ぶという目標を立て、私たちは大縄を始めました。私は心の中で、絶対にできるわけないと思っていました。でも、練習を重ねていく度に跳んだ回数は増えていき、私はいけるかもしれないと思い始めました。そして、ある日の体育の時間に、目標の100回を跳ぶことができました。その時、私たちは声を上げて喜びました。私たちは、体育の時間以外にも、昼休みにも練習していました。諦めずにみんなで協力して頑張れば、努力は必ず報われることに私は気付かされました。

3学期も終わりに近づく頃、クラスの文集を作りました。その時、先生が書いたメッセージにはこう書いてありました。

『「人間」とは、人と人之间を大切にする生き物であり、ひとりでは絶対に生きていきません。たくさんの人と協力して生きていく生き物だと先生は思います。』

私は、道徳の時間のこと、クラスみんなでチャレンジした大縄跳びのことを思い出しました。4年生のとき、このことを教えてくれた先生に感謝したいです。その先生は私だけでなく、クラスのみなを変えた尊敬する先生です。

黒田 ひかる

(中学生)